

問 11 問 10 で「1. 過去に暴力を受けたことがある」または「2. 現在も暴力を受けることがある」と答えた方におうかがいします。

あなたは、どんな暴力を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

受けた暴力の内容については、「ことばの暴力（「甲斐性なし」「誰に食わせてもらっている」など、ののしりの言葉や何を言っても無視するなど）」の割合が最も高く 63.3%となっており、次いで「身体的暴力（平手打ち、殴る、蹴るなど）」の割合が 60.5%、「物の破壊（怒って部屋の物を壊して脅かす、大事にしているものを捨てたり、壊したりすることによって精神的打撃を与える）」の割合が 36.7%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「物の破壊（怒って部屋の物を壊して脅かす、大事にしているものを捨てたり、壊したりすることによって精神的打撃を与える）」の割合が高く、「身体的暴力（平手打ち、殴る、蹴るなど）」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「身体的暴力（平手打ち、殴る、蹴るなど）」、「性的暴力（気が進まないセックスの強要、避妊の非協力、浮気を繰り返す）」、「物の破壊（怒って部屋の物を壊して脅かす、大事にしているものを捨てたり、壊したりすることによって精神的打撃を与える）」、「経済的暴力（生活費を入れない、極度に低額しか渡さない、働くことの妨害など）」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「ことばの暴力（「甲斐性なし」「誰に食わせてもらっている」など、ののしりの言葉や何を言っても無視するなど）」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、他の年代に比べ女性の 30 歳代で「身体的暴力（平手打ち、殴る、蹴るなど）」の割合が高く、20 歳代で「性的暴力（気が進まないセックスの強要、避妊の非協力、浮気を繰り返す）」、「社会的暴力（買い物の制限、友人・実家などとの付き合いの禁止、手紙の無断開封など）」の割合が高くなっています。また、男性で年齢が高くなるにつれて「ことばの暴力（「甲斐性なし」「誰に食わせてもらっている」など、ののしりの言葉や何を言っても無視するなど）」の割合が高くなっています。また、男性の 40 歳代で「社会的暴力（買い物の制限、友人・実家などとの付き合いの禁止、手紙の無断開封など）」の割合が高くなっています。

図 受けた暴力の内容

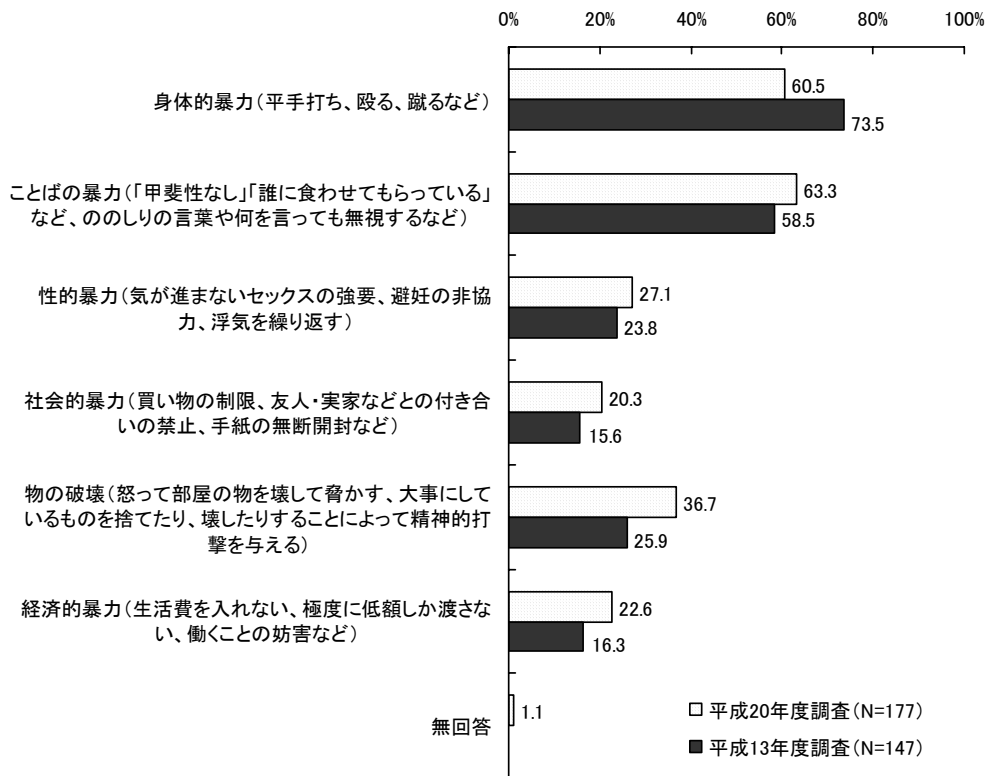


図 性別でみる受けた暴力の内容

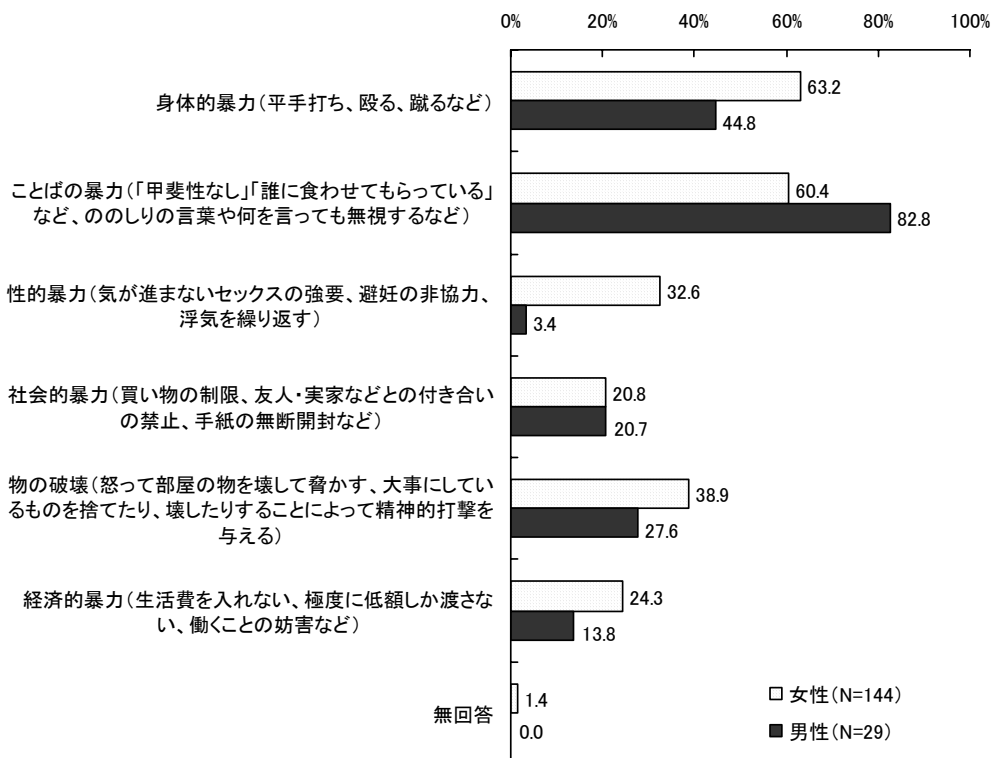
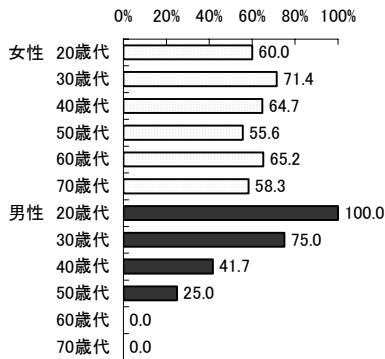
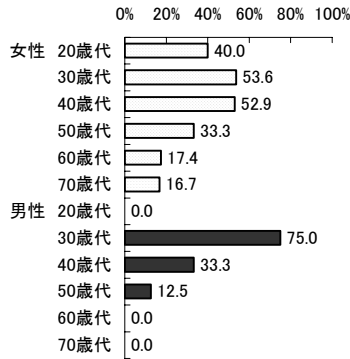


図 性・年代別でみる受けた暴力の内容

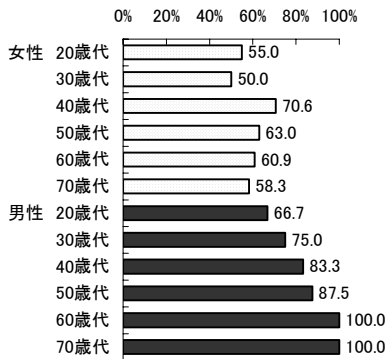
身体的暴力(平手打ち、殴る、蹴るなど)



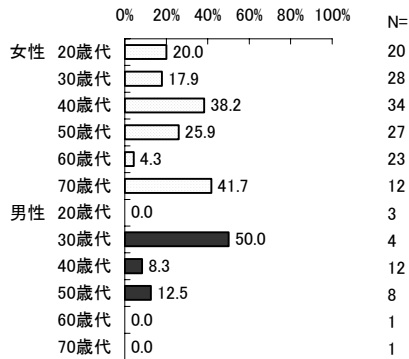
物の破壊(怒って部屋の物を壊して脅かす、大事にしているものを捨てたり、壊したりすることによって精神的打撃を与える)



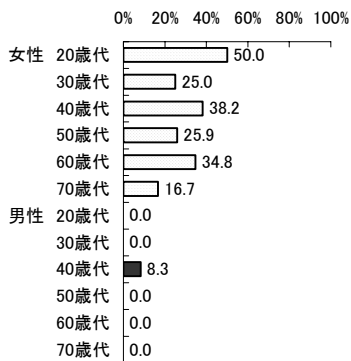
ことばの暴力(「甲斐性なし」「誰に食わせてもらっている」など、ののしりの言葉や何を言っても無視するなど)



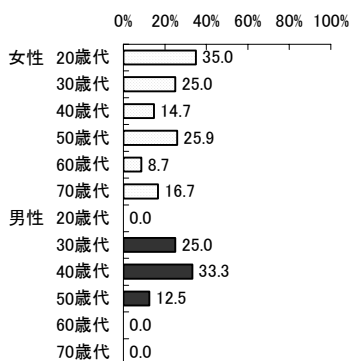
経済的暴力(生活費を入れない、極度に低額しか渡さない、働くことの妨害など)



性的暴力(気が進まないセックスの強要、避妊の非協力、浮気を繰り返す)



社会的暴力(買い物の制限、友人・実家などとの付き合いの禁止、手紙の無断開封など)



問12 あなたは、暴力を受けたとき、どのように対処しましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

暴力を受けたときの対処については、「我慢した」の割合が最も高く 65.5%となっており、次いで「本人同士で話し合った」の割合が22.6%、「家族に相談した」の割合が21.5%、「友人や同僚に相談した」の割合が20.9%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「我慢した」の割合が低くなっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「本人同士で話し合った」、「友人や同僚に相談した」の割合が高くなっています。女性に比べ男性で「我慢した」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の20歳代で「友人や同僚に相談した」の割合が高くなっています。

図 暴力を受けたときの対処

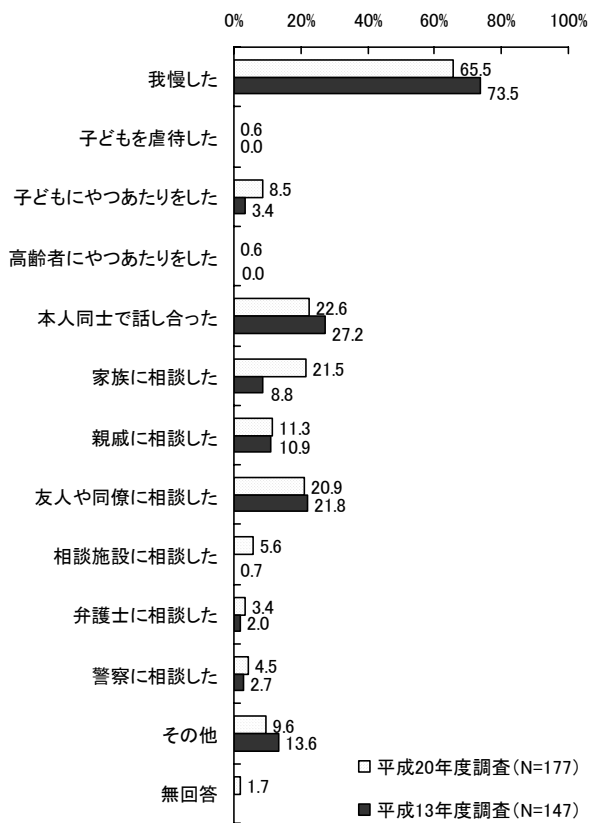


図 性別でみる暴力を受けたときの対処

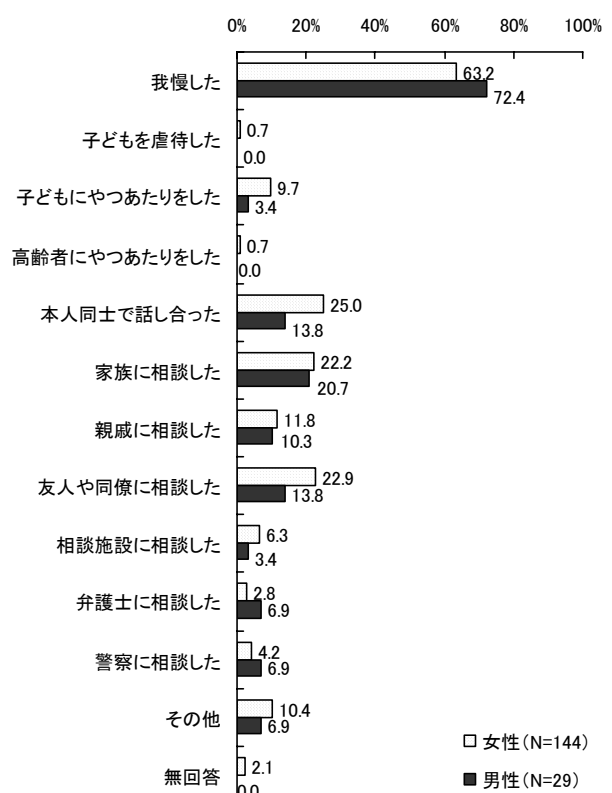
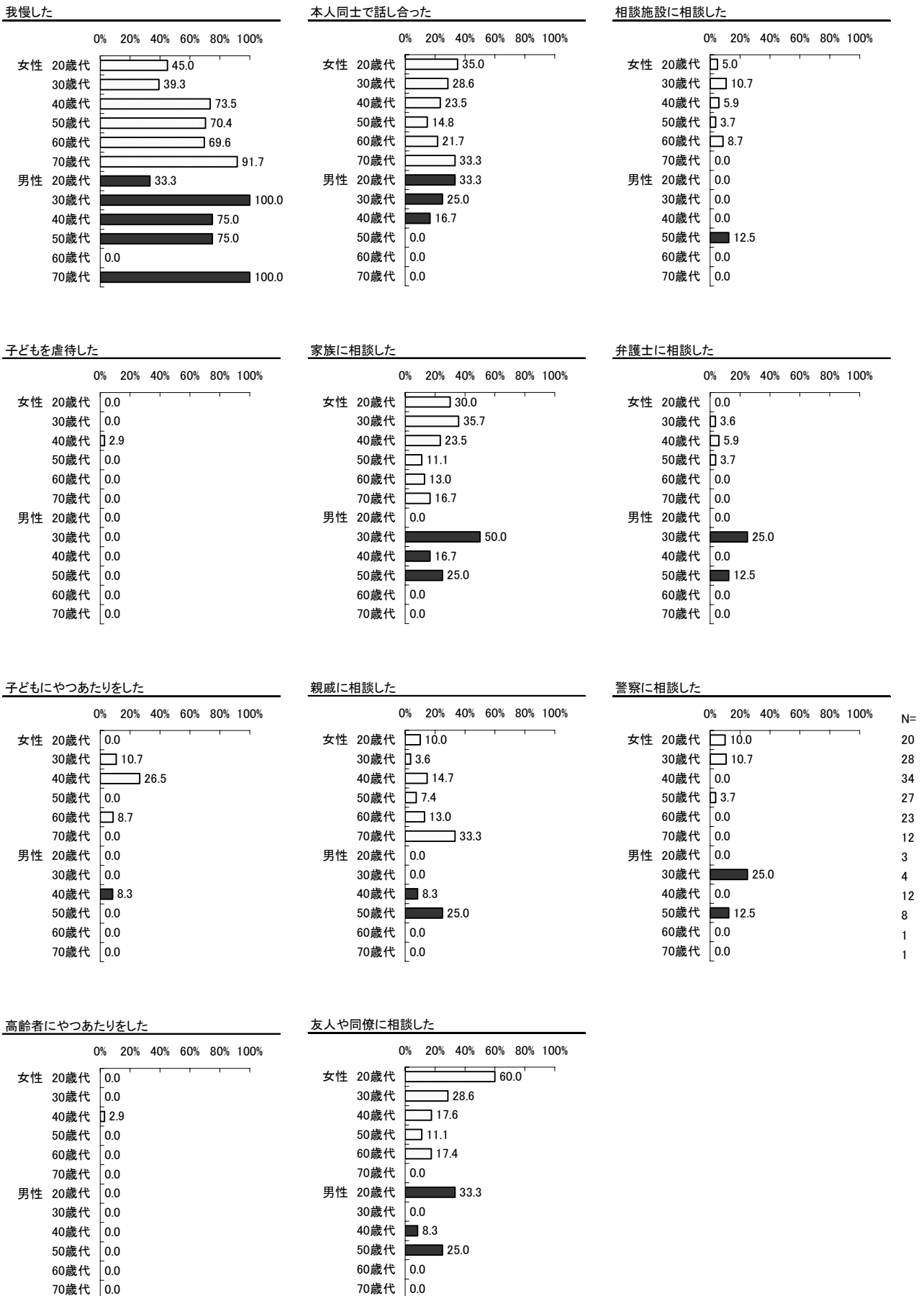


図 性・年代別でみる暴力を受けたときの対処



**問 13 あなたは、ドメスティック・バイオレンスの被害を受けた人に対する公的な相談や援助体制が必要だと思いますか。**

ドメスティック・バイオレンスを受けた人の公的な支援の必要性については、「必要である」の割合が 83.1%となっており、「特に必要ない」の割合が 3.5%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の 70 歳代で「必要である」の割合が低くなっています。また、男性で年齢が高くなるにつれて「必要である」の割合が低くなる傾向にあります。

図 性別でみるドメスティック・バイオレンスを受けた人の公的な支援の必要性

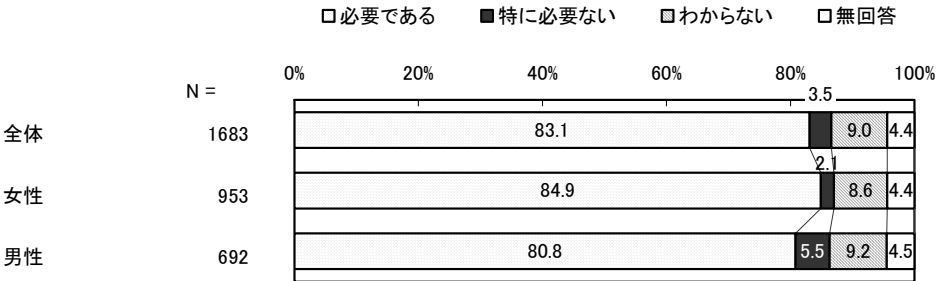
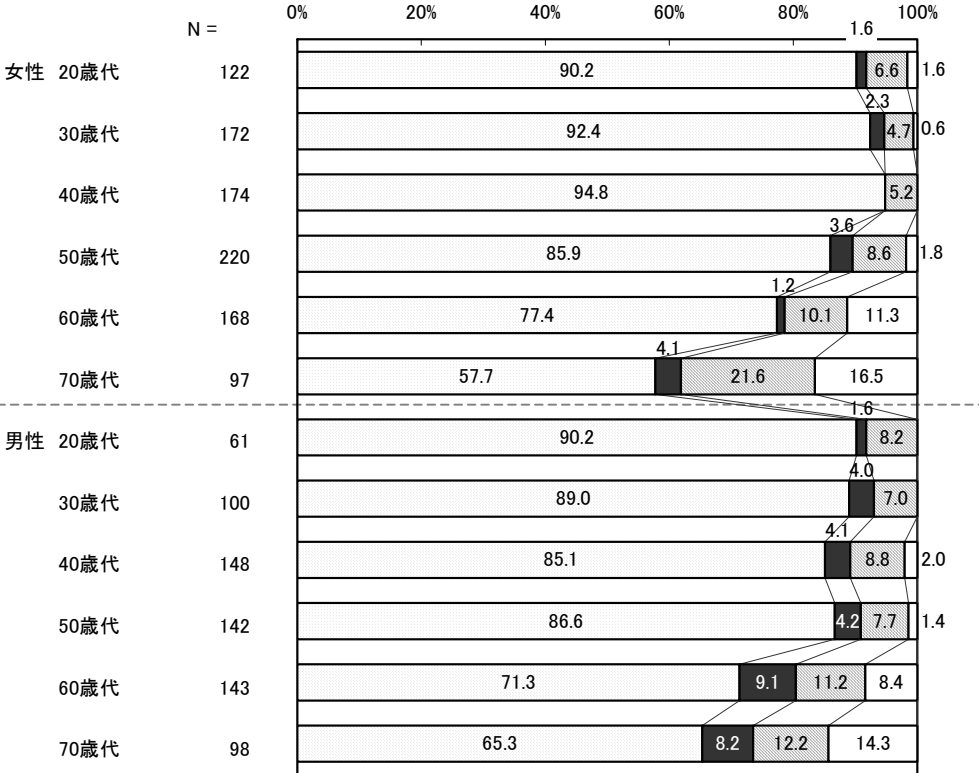


図 性・年代別でみるドメスティック・バイオレンスを受けた人の公的な支援の必要性



問 14 問 13 で「1. 必要である」と答えた方におうかがいします。  
あなたは、どのような相談や支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

ドメスティック・バイオレンスを受けた人への支援内容については、「家庭の中のことでも気兼ねなく、うちあけられる相談窓口」の割合が最も高く 48.3%となっており、次いで「被害から逃れた方が自立して生活できるような経済的支援、就業支援など」の割合が 42.1%、「シェルター（被害から逃れるための緊急一時保護施設）などの設置」の割合が 40.8%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「シェルター（被害から逃れるための緊急一時保護施設）などの設置」、「被害から逃れた方が自立して生活できるような経済的支援、就業支援など」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「家庭の中のことでも気兼ねなく、うちあけられる相談窓口」、「被害者・加害者がいつでも電話できる相談窓口」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の 50 歳代で「被害から逃れた方が自立して生活できるような経済的支援、就業支援など」の割合が高くなっています。また、男性の 20 歳代で「法的な手続き（被害届や保護命令など）について詳しく教えてくれる窓口」の割合が高くなっています。

図 性別でみるドメスティック・バイオレンスを受けた人への支援内容

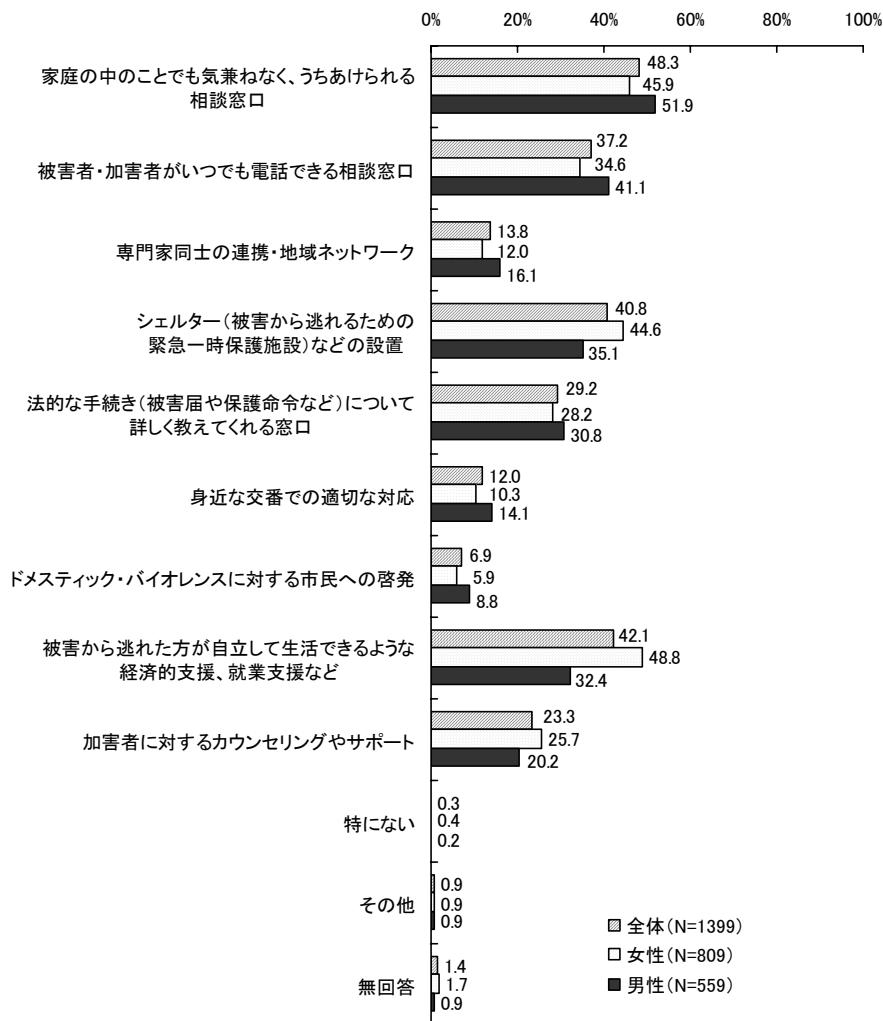
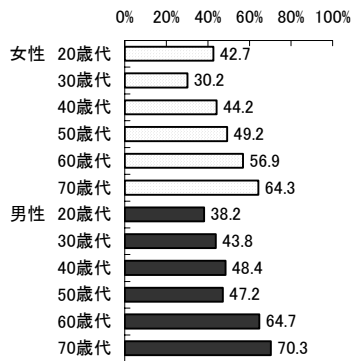
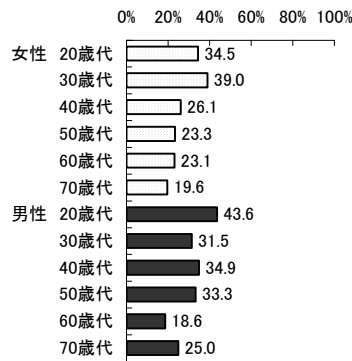


図 性・年代別でみるドメスティック・バイオレンスを受けた人への支援内容

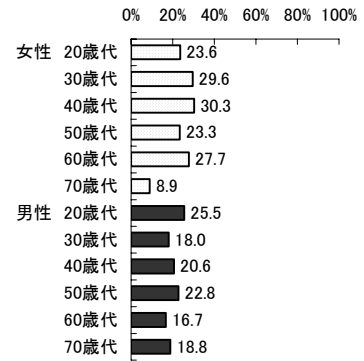
家庭の中のことも気兼ねなく、うちあげられる相談窓口



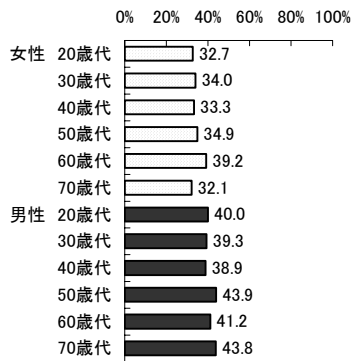
法的な手続き(被害届や保護命令など)について詳しく教えてくれる窓口



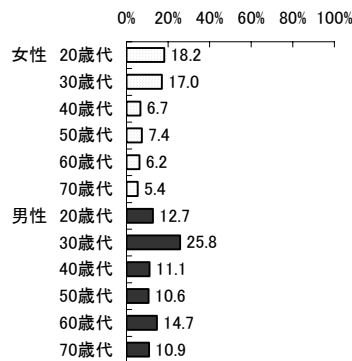
加害者に対するカウンセリングやサポート



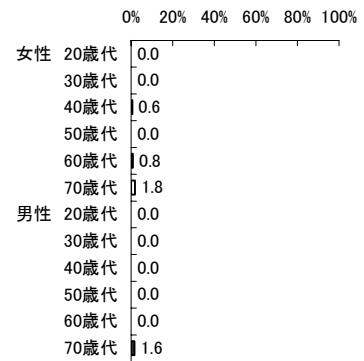
被害者・加害者がいつでも電話できる相談窓口



身近な交番での適切な対応

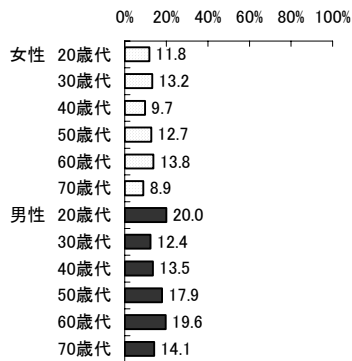


特になし

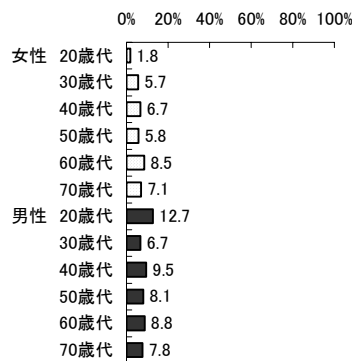


N=  
110  
159  
165  
189  
130  
56  
55  
89  
126  
123  
102  
64

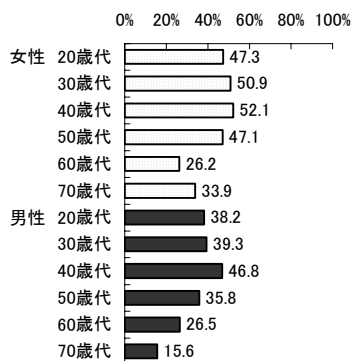
専門家同士の連携・地域ネットワーク



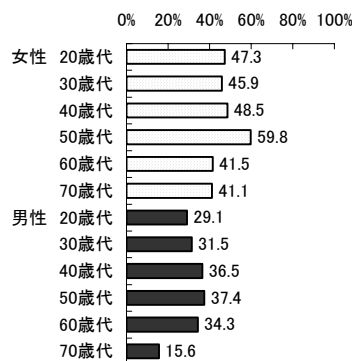
ドメスティック・バイオレンスに対する市民への啓発



シェルター(被害から逃れるための緊急一時保護施設)などの設置



被害から逃れた方が自立して生活できるような経済的支援、就業支援など





**問 15 あなたは、ドメスティック・バイオレンスが起きる原因は、どこにあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)**

ドメスティック・バイオレンスが起きる原因については、「相手を対等な存在とみなしていない」の割合が最も高く 54.2%となっており、次いで「暴力は人権侵害であり犯罪であるという意識が低い」の割合が 45.9%、「会社など家庭外のストレスが大きい」の割合が 40.2%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「相手を対等な存在とみなしていない」、「暴力は人権侵害であり犯罪であるという意識が低い」の割合が高く、「男女間の話し合いや理解が不足している」の割合が低くなっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「暴力は人権侵害であり犯罪であるという意識が低い」、「子どもの頃から暴力があたりまえのこととして育ってきた」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「男女間の話し合いや理解が不足している」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の 30 歳代、40 歳代で「相手を対等な存在とみなしていない」の割合が高くなっています。また、男性の 20 歳代で「会社など家庭外のストレスが大きい」の割合が高くなっています。

図 ドメスティック・バイオレンスが起きる原因

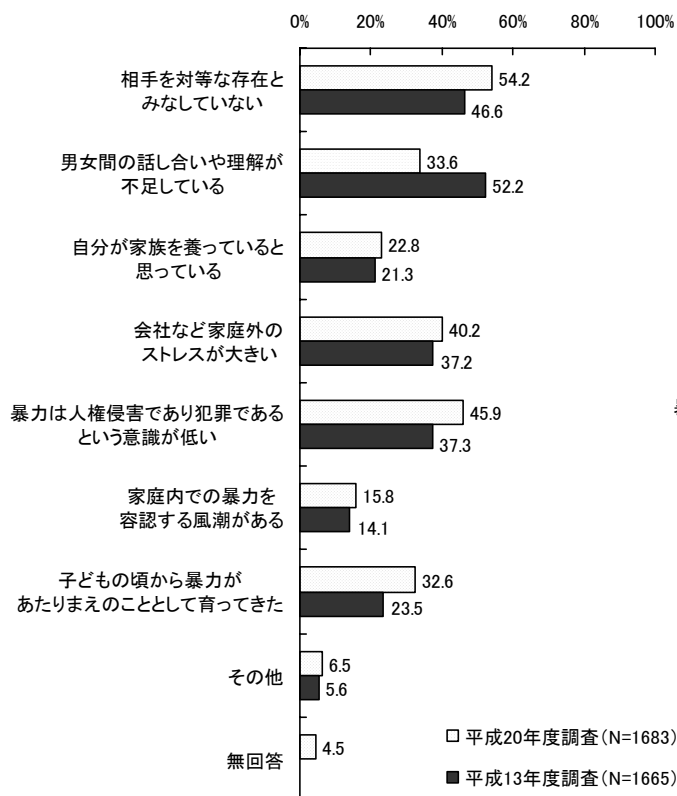


図 性別でみるドメスティック・バイオレンスが起きる原因

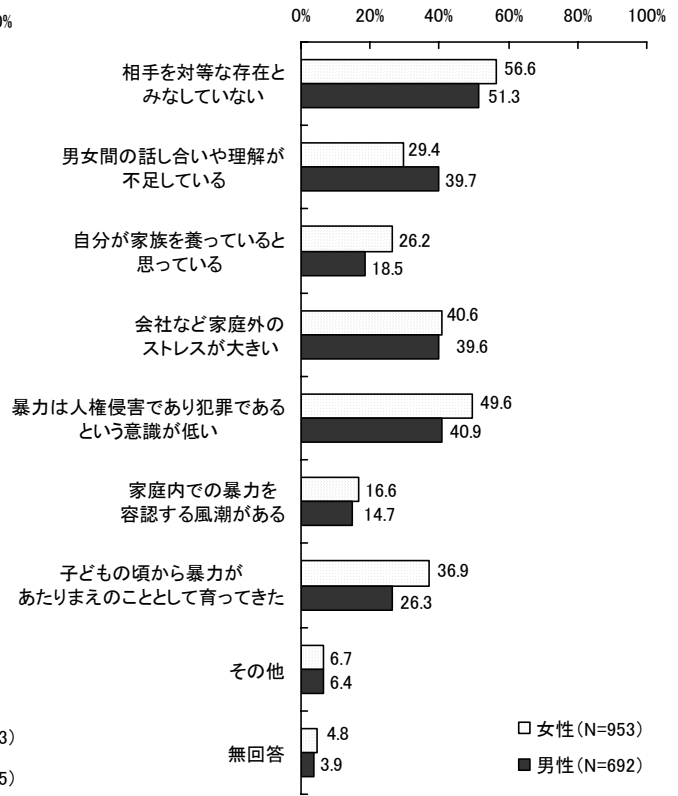
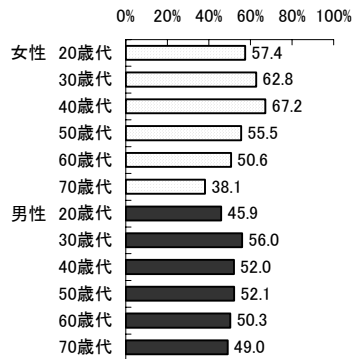
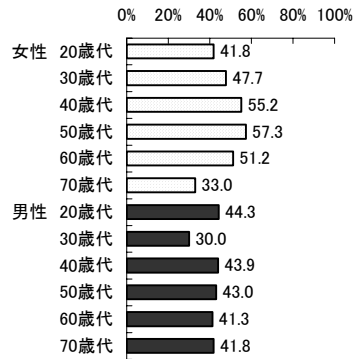


図 性・年代別でみるドメスティック・バイオレンスが起きる原因

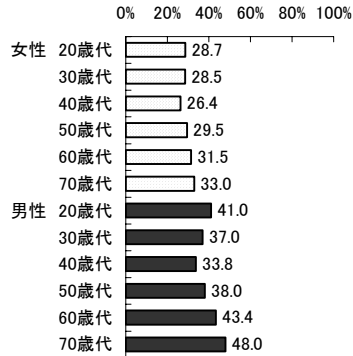
相手を対等な存在とみなしていない



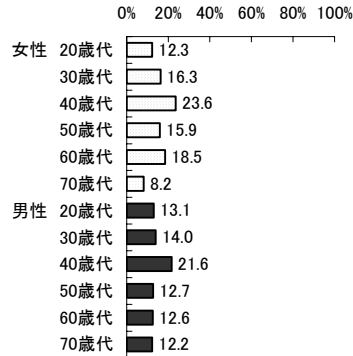
暴力は人権侵害であり犯罪であるという意識が低い



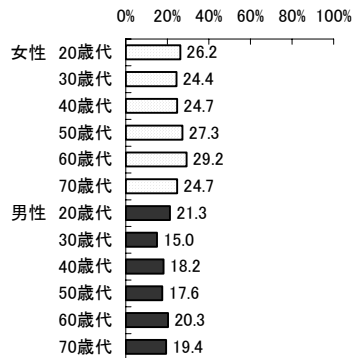
男女間の話し合いや理解が不足している



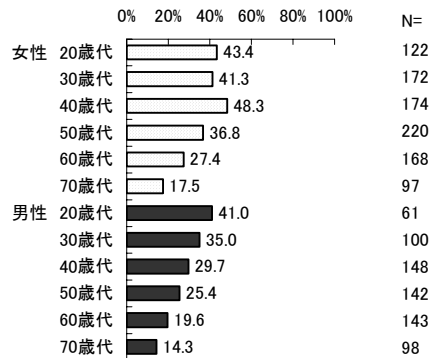
家庭内での暴力を容認する風潮がある



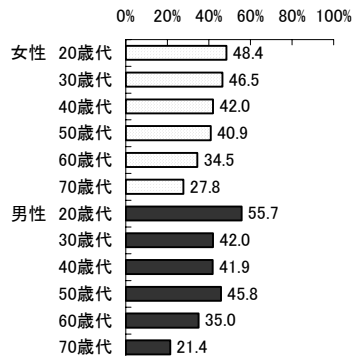
自分が家族を養っていると思っている



子どもの頃から暴力があたりまえのこととして育ってきた



会社など家庭外のストレスが大きい



**問 16 あなたは、ドメスティック・バイオレンスをなくすために、どうしたらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)**

ドメスティック・バイオレンスをなくすための方法については、「暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する」の割合が最も高く 53.1%となっており、次いで「相談やカウンセリングができる体制を整える」の割合が 48.0%、「本人同士がよく話し合い、理解を深める」の割合が 37.8%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する」、「相談やカウンセリングができる体制を整える」、「シェルター（被害から逃れるための緊急一時保護施設）を設置する」の割合が高く、「本人同士がよく話し合い、理解を深める」、「家族で暴力をふるわないように説得する」の割合が低くなっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する」、「相談やカウンセリングができる体制を整える」、「シェルター（被害から逃れるための緊急一時保護施設）を設置する」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「本人同士がよく話し合い、理解を深める」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の 70 歳代で「本人同士がよく話し合い、理解を深める」の割合が高く、「暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する」、「相談やカウンセリングができる体制を整える」の割合が低くなっています。また、男性の 20 歳代、60 歳代以上で「本人同士がよく話し合い、理解を深める」の割合が高くなっています。

図 ドメスティック・バイオレンスをなくすための方法

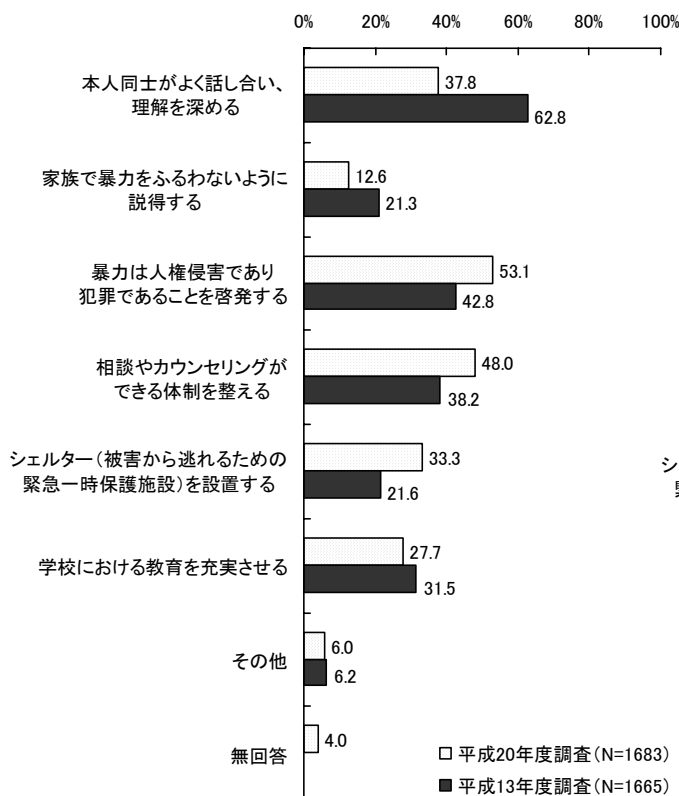


図 性別でみるドメスティック・バイオレンスをなくすための方法

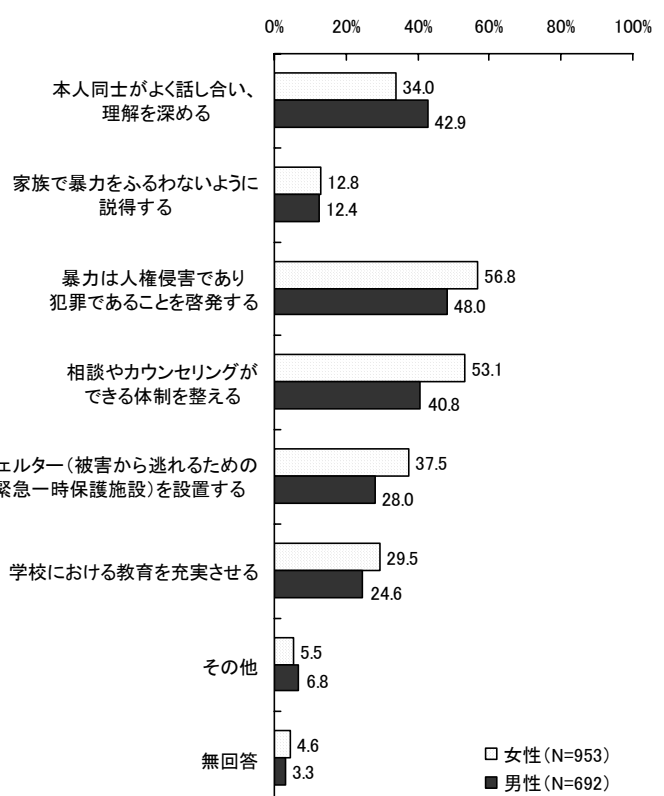
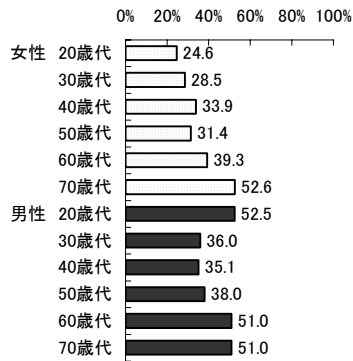
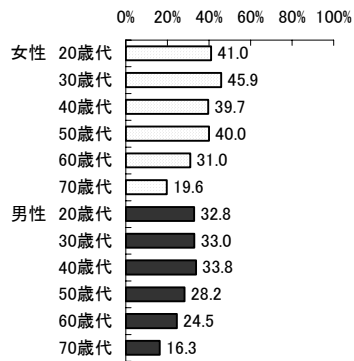


図 性・年代別でみるドメスティック・バイオレンスをなくすための方法

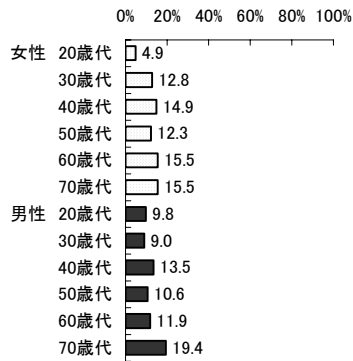
本人同士がよく話し合い、理解を深める



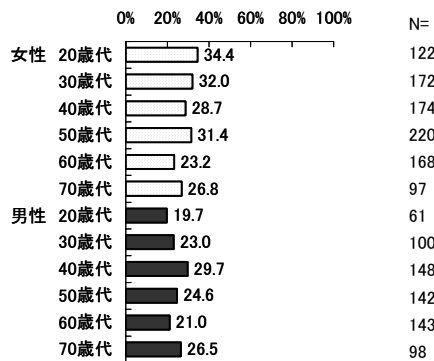
シェルター(被害から逃れるための緊急一時保護施設)を設置する



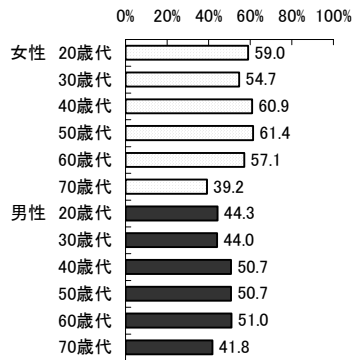
家族で暴力をふるわないように説得する



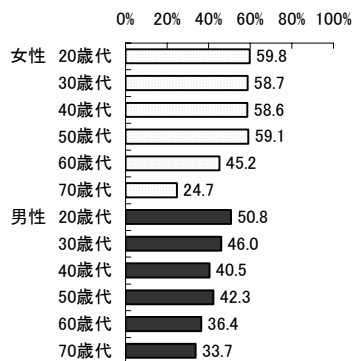
学校における教育を充実させる



暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する



相談やカウンセリングができる体制を整える



## (5) 社会活動について

### 問 17 あなたは、社会活動に参加していますか。

社会活動への参加状況については、「参加している」の割合が最も高く 42.5%となっており、次いで「参加していない」の割合が 41.5%、「今は参加していないが今後参加したい」の割合が 14.0%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「参加している」の割合が高くなっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

性・年代別でみると、女性の 40 歳代で「参加している」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ男性の 20 歳代で「今は参加していないが今後参加したい」の割合が高く、50 歳代で「参加している」の割合が高くなっています。

図 社会活動への参加状況

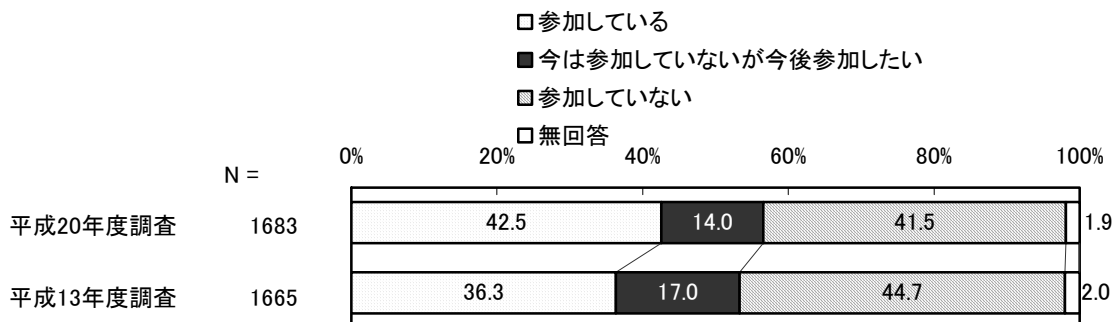


図 性別でみる社会活動への参加状況

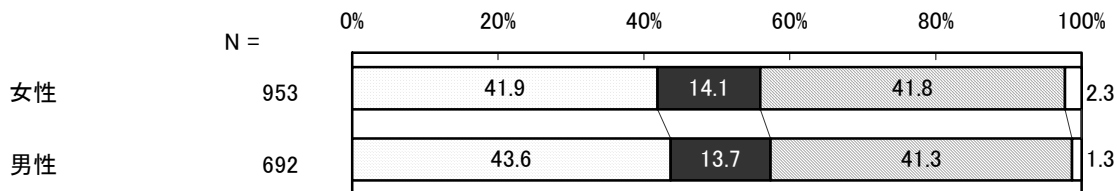
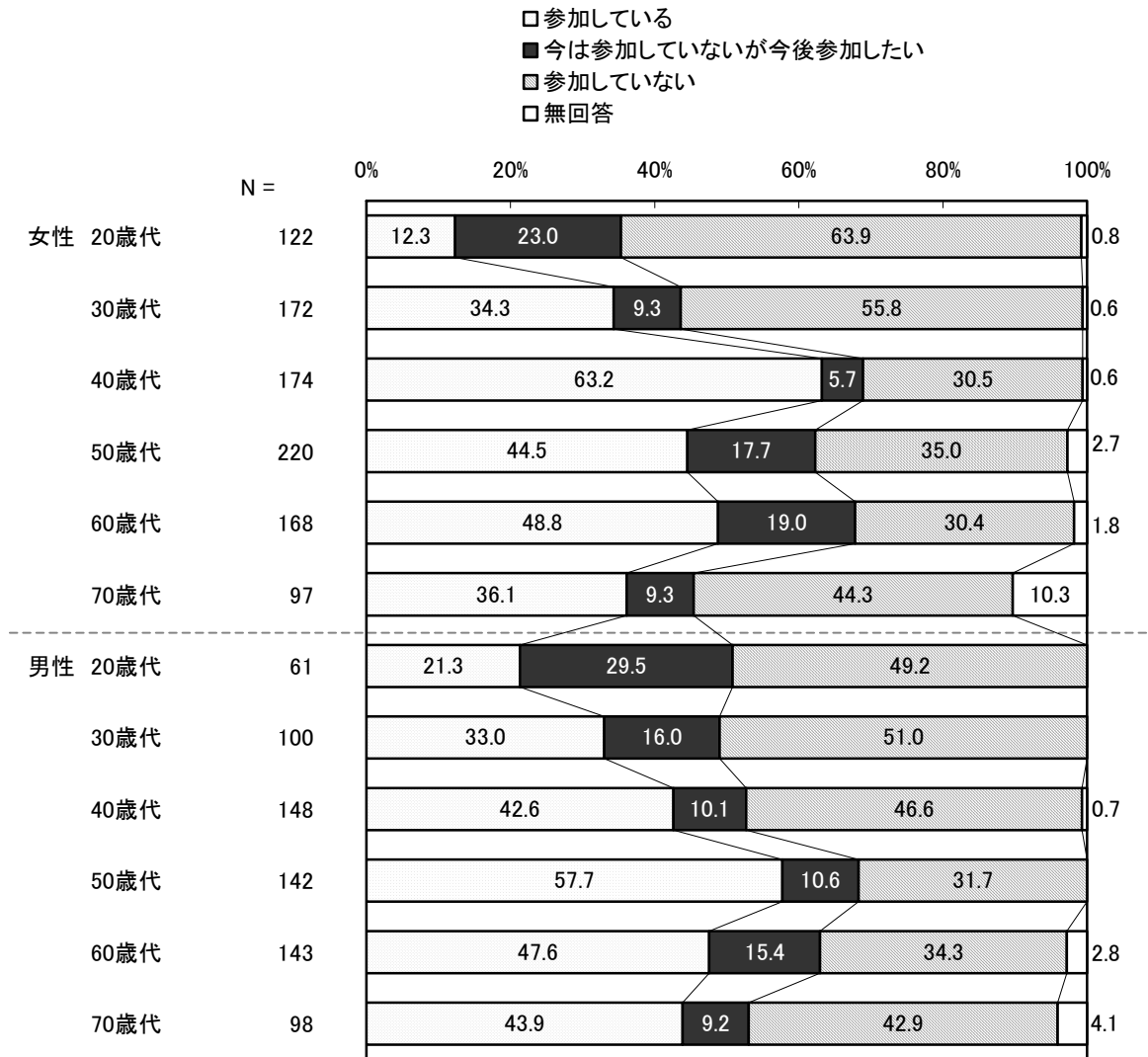


図 性・年代別でみる社会活動への参加状況



問 18 問 17 で「1. 参加している」または「2. 今は参加していないが今後参加したい」と答えた方におうかがいします。  
 あなたの参加している活動、あるいは参加したい活動はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

参加している・参加したい活動については、「町内会・自治会の活動」の割合が最も高く 69.6% となっており、次いで「ボランティアの活動」の割合が 35.6%、「PTA・子ども会の活動」の割合が 24.1%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「町内会・自治会の活動」の割合が高くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「PTA・子ども会の活動」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「町内会・自治会の活動」、「市民運動・まちづくりの活動」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の 30 歳代、40 歳代で「町内会・自治会の活動」、「PTA・子ども会の活動」の割合が高く、70 歳代で「青年会・婦人会・老人会の活動」の割合が高く、20 歳代、50 歳代、60 歳代で「ボランティアの活動」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ男性の 30 歳代以上で「町内会・自治会の活動」の割合が高く、20 歳代で「ボランティアの活動」の割合が高く、70 歳代で「青年会・婦人会・老人会の活動」、「市民運動・まちづくりの活動」の割合が高くなっています。

図 参加している・参加したい活動

図 性別でみる参加している・参加したい活動

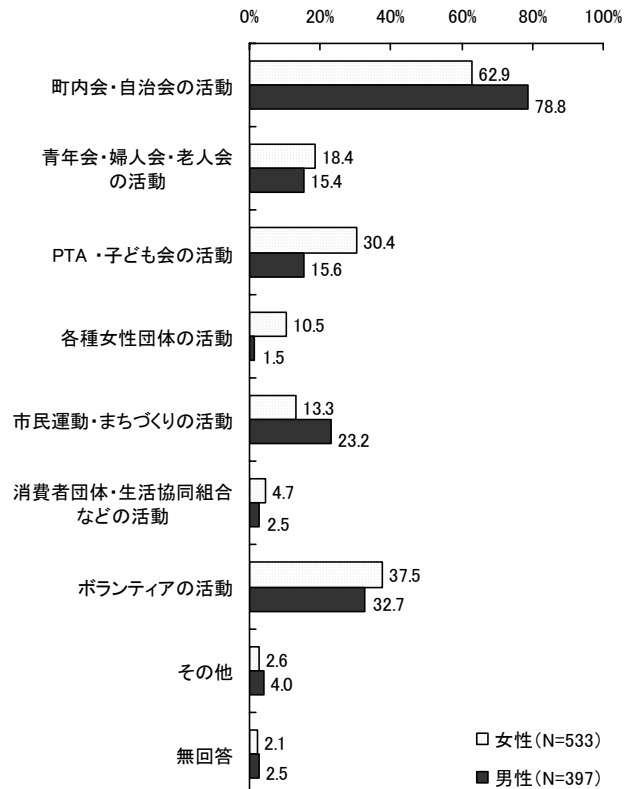
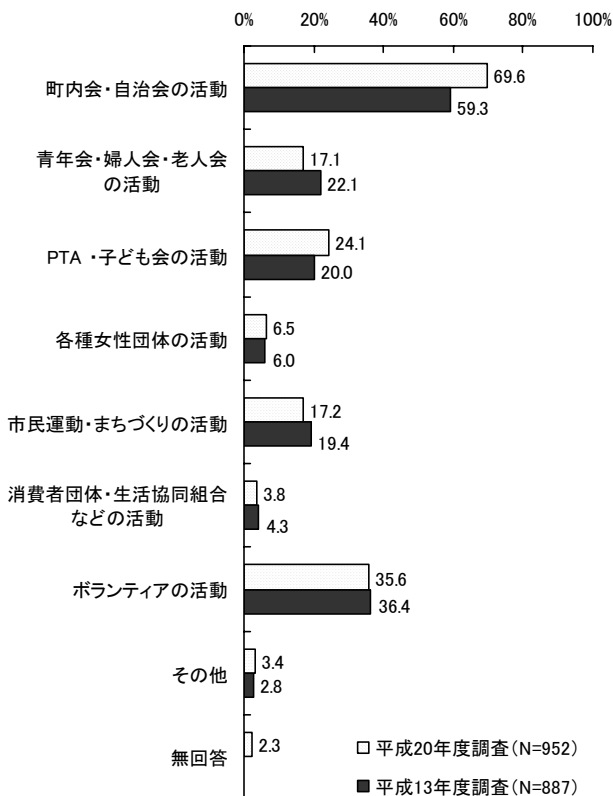
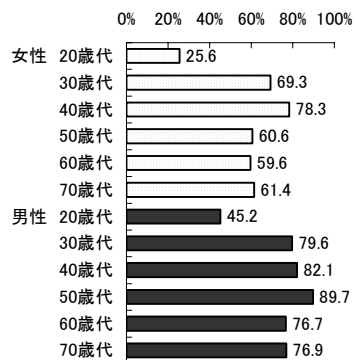
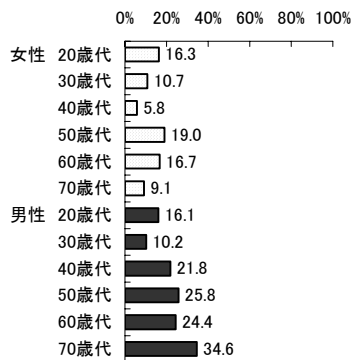


図 性・年代別でみる参加している・参加したい活動

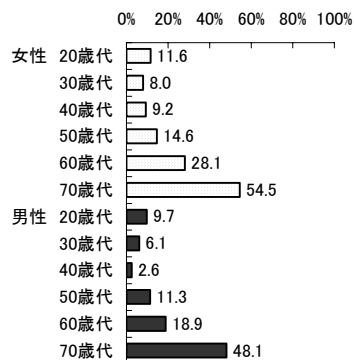
町内会・自治会の活動



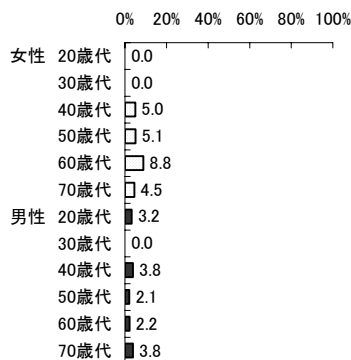
市民運動・まちづくりの活動



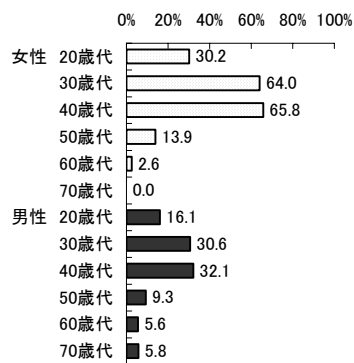
青年会・婦人会・老人会の活動



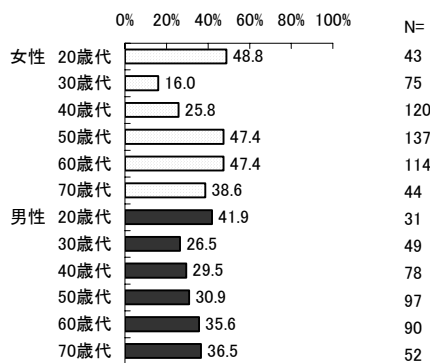
消費者団体・生活協同組合などの活動



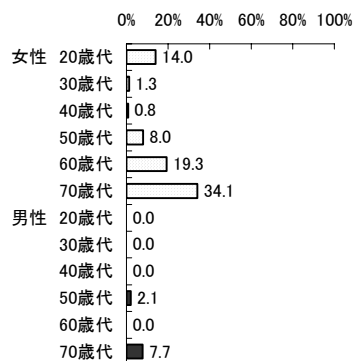
PTA・子ども会の活動



ボランティアの活動



各種女性団体の活動





**問 19 あなたが社会活動をしようとする場合、どのようなことが障害となっていたり、障害となるだろうと思われますか。(〇は2つまで)**

社会活動をする場合の障害については、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が最も高く54.8%となっており、次いで「参加するきっかけがつかめない」の割合が25.0%、「人間関係がわずらわしい」の割合が17.9%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性に比べ女性で「子どもや高齢者、病人がおり、家をあげられない」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の30歳代で「子どもや高齢者、病人がおり、家をあげられない」の割合が高くなっています。また、男性の20歳代から50歳代で「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が高くなっています。

図 社会活動をする場合の障害

図 性別でみる社会活動をする場合の障害

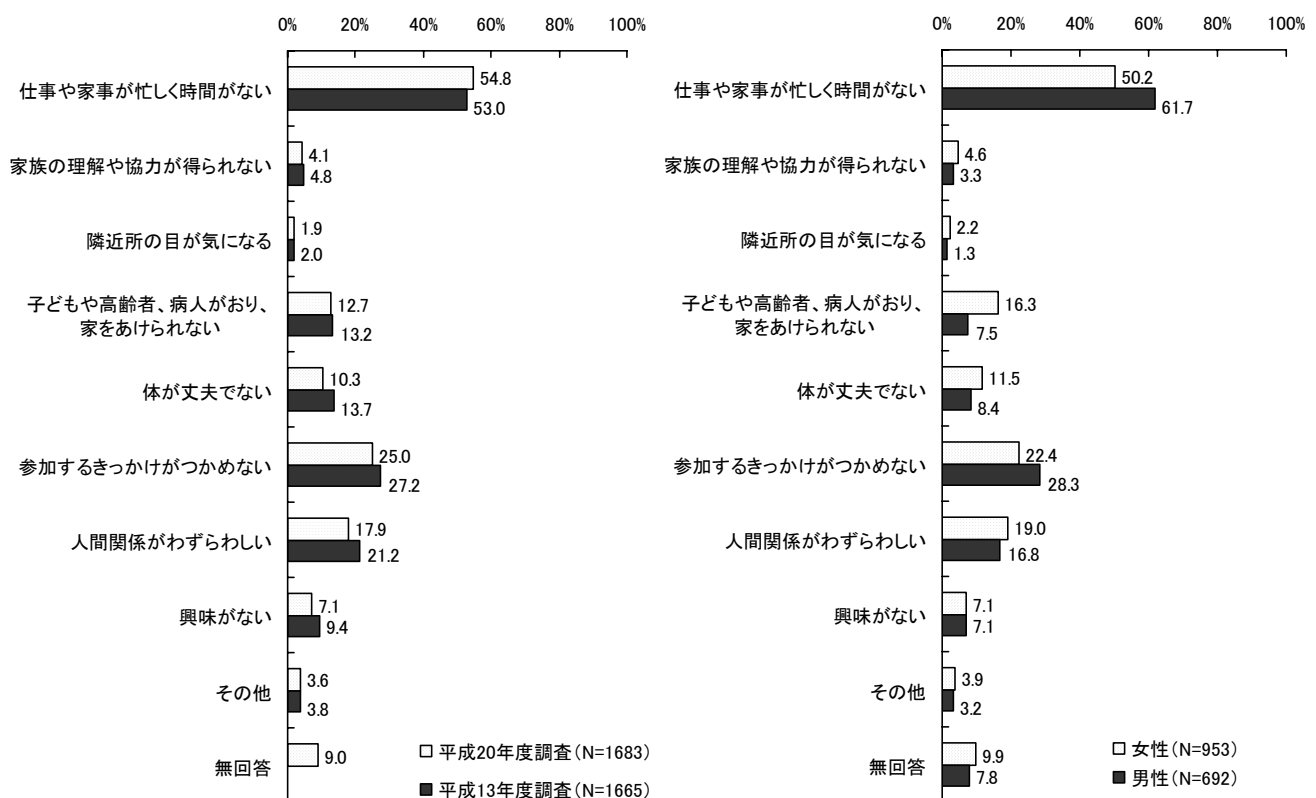
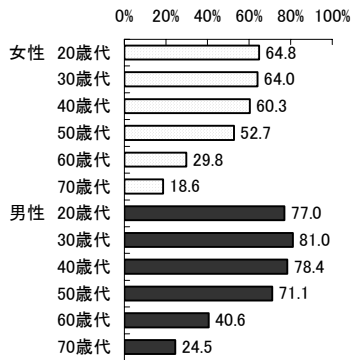
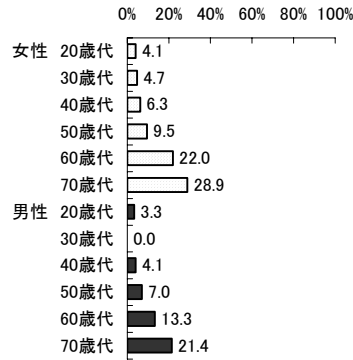


図 性・年代別でみる社会活動をする場合の障害

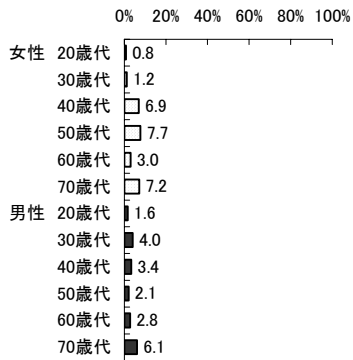
仕事や家事が忙しく時間がない



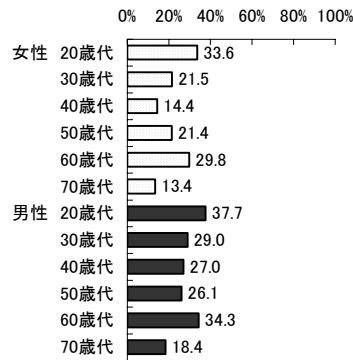
体が丈夫でない



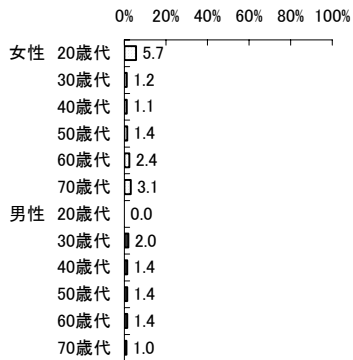
家族の理解や協力が得られない



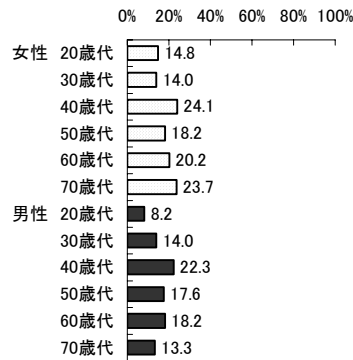
参加するきっかけがつかめない



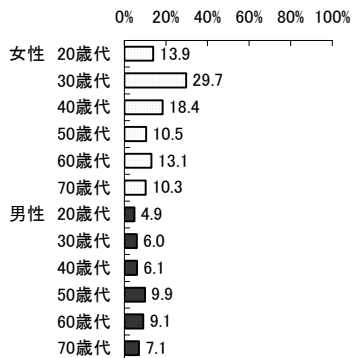
隣近所の目が気になる



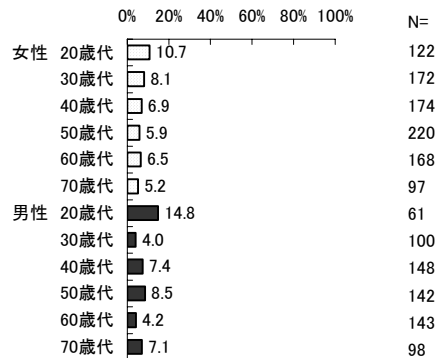
人間関係がわずらわしい



子どもや高齢者、病人がおり、家をあげられない



興味が無い



## (6) 地域について

問 20 あなたの住んでいる地域（自治会・町内会）の行事などに男女不平等なことがありますか。

住んでいる地域で男女不平等なことがあるかについては、「ある」の割合が 18.7%、「ない」の割合が 74.7%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、大きな差異はみられません。

性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の 40 歳代で「ある」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ男性の 50 歳代で「ある」の割合が高くなっています。

図 住んでいる地域で男女不平等なことがあるか

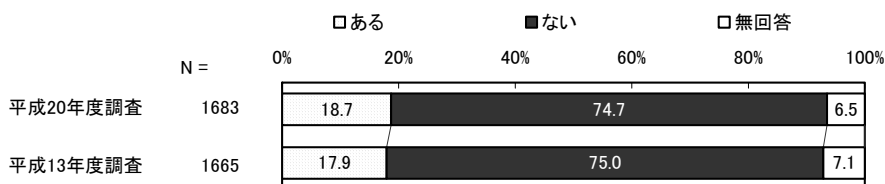


図 性別でみる住んでいる地域で男女不平等なことがあるか

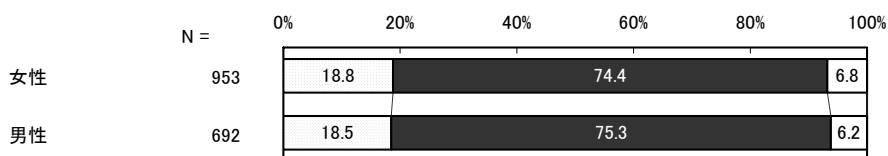
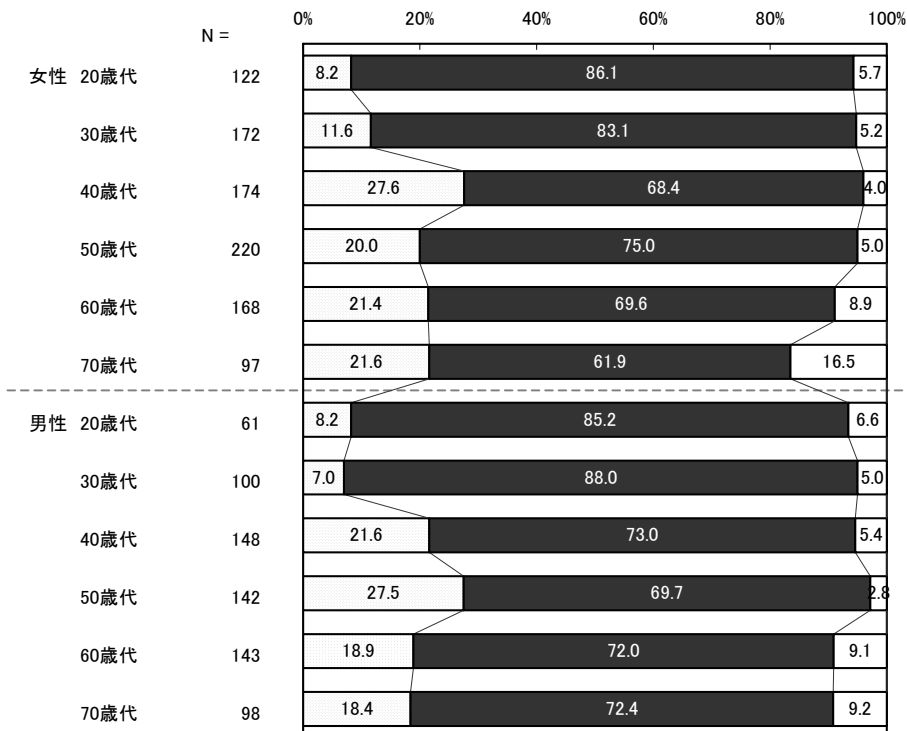


図 性・年代別でみる住んでいる地域で男女不平等なことがあるか



問 21 問 20 で「1. ある」と答えた方におうかがいします。

あなたの住んでいる地域（自治会・町内会）の行事などにどのような男女不平等なことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

住んでいる地域の男女不平等の内容については、「性別による固定的な役割分担がある」の割合が最も高く 54.0%となっており、次いで「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」の割合が 36.5%、「会議などで女性が意見を言いにくかったり、男性と差がある」の割合が 31.7%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「地域の行事・祭礼などで女性が参加できなかつたり、男性と差がある」の割合が低くなっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の 50 歳代以上で「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」の割合が高く、30 歳代、40 歳代で「性別による固定的な役割分担がある」の割合が高くなっています。また、男性の 40 歳代、50 歳代、70 歳代で「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」の割合が高くなっています。

図 住んでいる地域の男女不平等の内容

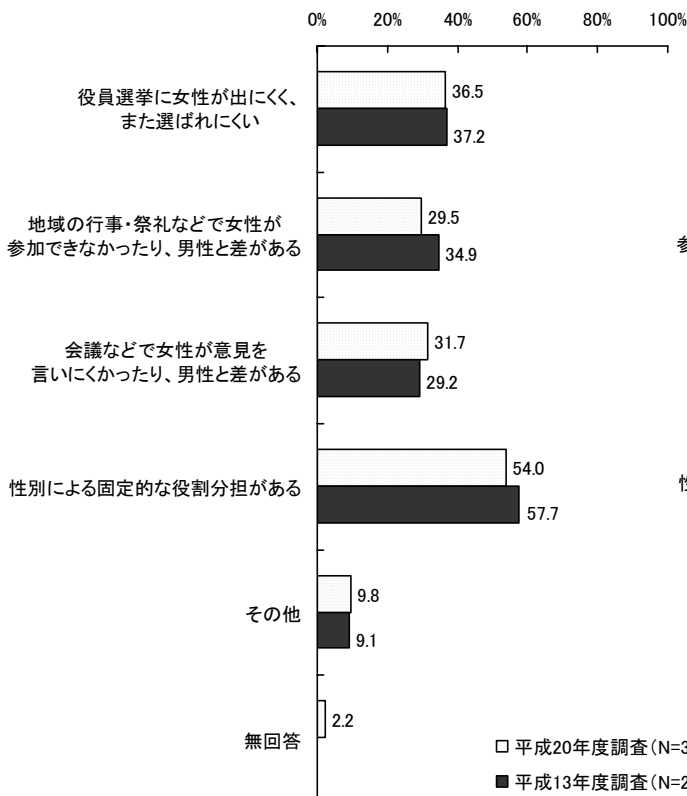


図 性別でみる住んでいる地域の男女不平等の内容

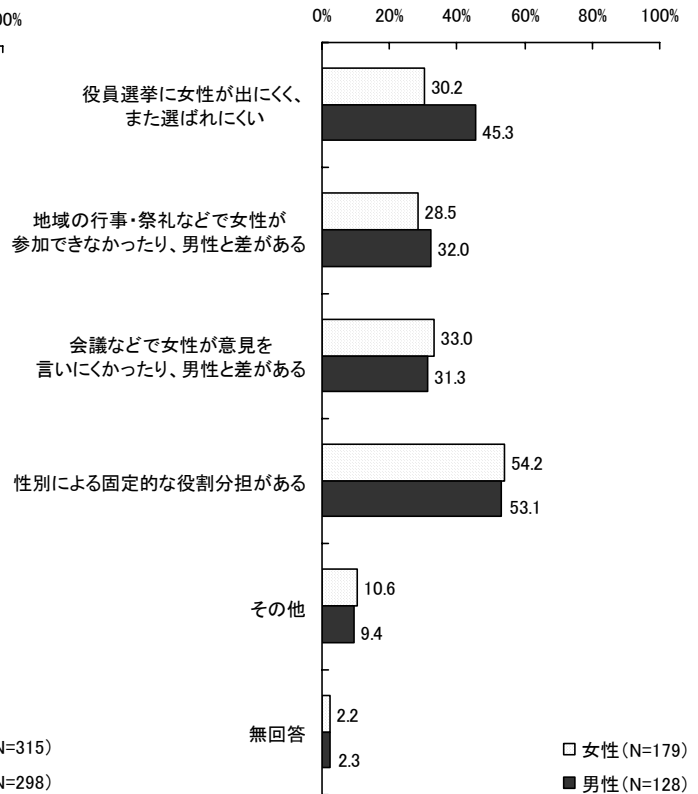
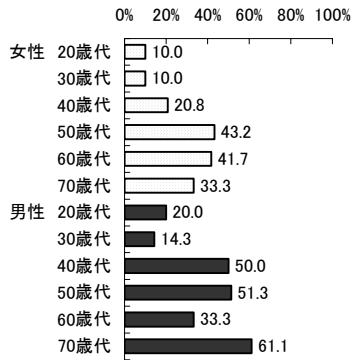
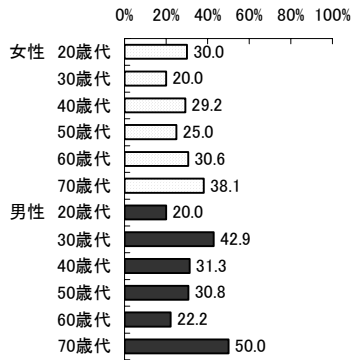


図 性・年代別でみる住んでいる地域の男女不平等の内容

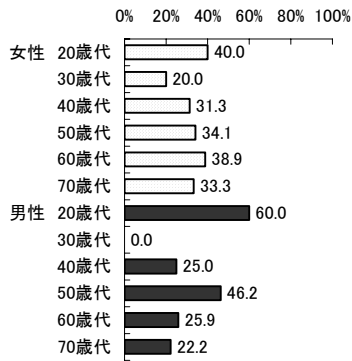
役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい



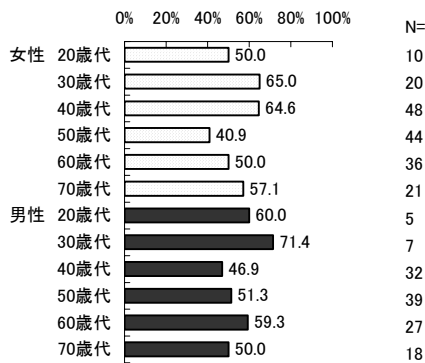
地域の行事・祭礼などで女性が参加できなかったり、男性と差がある



会議などで女性が意見を言いにくかったり、男性と差がある



性別による固定的な役割分担がある



**問 22 あなたは、地域の男女不平等の原因は、どこにあると思いますか。**  
**(あてはまるものすべてに○)**

地域の男女不平等の原因については、「社会的なしきたりやならわし」の割合が最も高く 68.3% となっており、次いで「男・女という性別によって役割が違うという意識」の割合が 60.0%、「男性の女性に対する偏見」の割合が 34.6%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、全ての項目で割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「社会的なしきたりやならわし」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「肉体的・体力的な差」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の 30 歳代、50 歳代、70 歳代で「男・女という性別によって役割が違うという意識」の割合が低くなっています。また、男性の 50 歳代で「社会的なしきたりやならわし」の割合が高くなっています。(男性の 20 歳代、30 歳代については、有効回答数が少数であり、統計上の信頼度が確保できないためコメントは差し控えます。)

図 地域の男女不平等の原因

図 性別でみる地域の男女不平等の原因

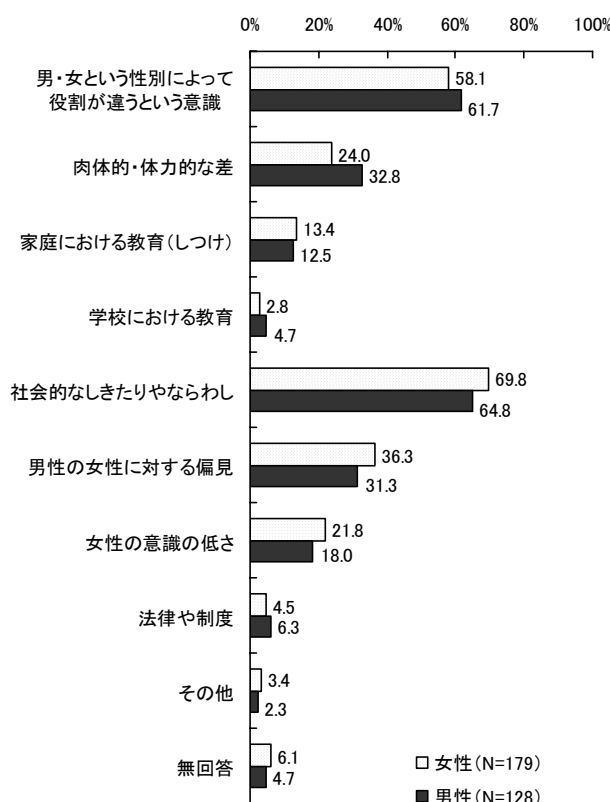
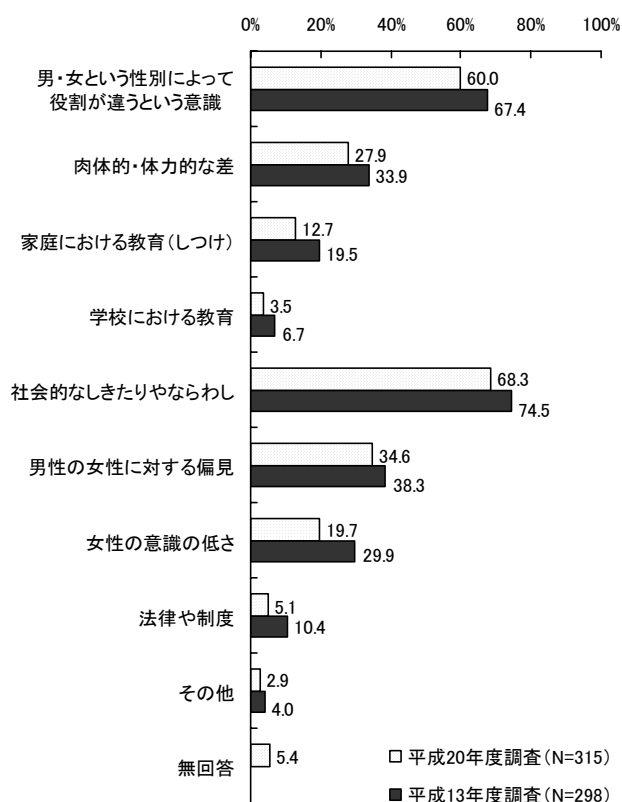
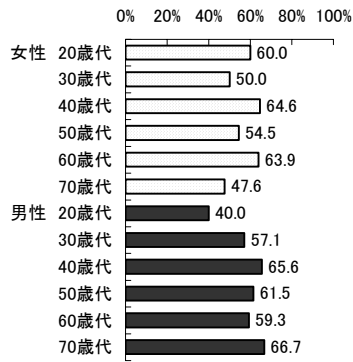
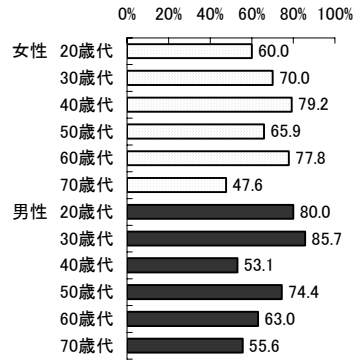


図 性・年代別でみる地域の男女不平等の原因

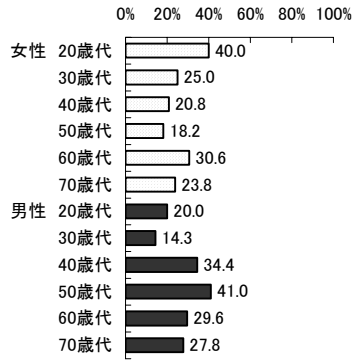
男・女という性別によって役割が違うという意識



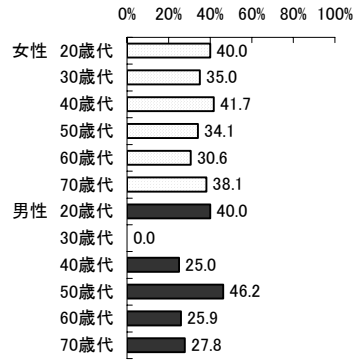
社会的なしきたりやならわし



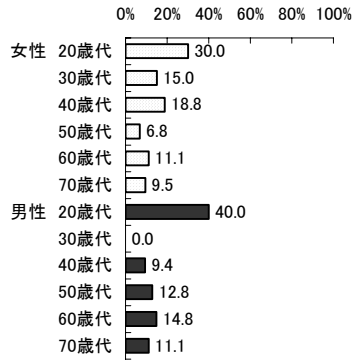
肉体的・体力的な差



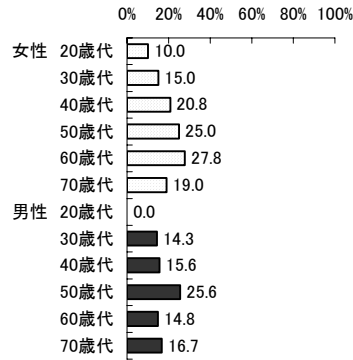
男性の女性に対する偏見



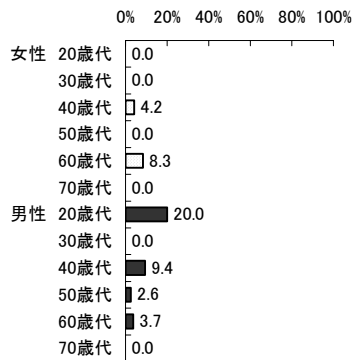
家庭における教育(しつけ)



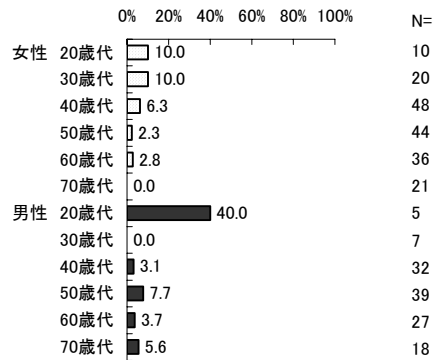
女性の意識の低さ



学校における教育



法律や制度



## (7) 労働について

問 23 あなたの現在の職業、配偶者の職業は、次のどれにあたりますか。  
 (それぞれ1つの番号を回答欄に記入、配偶者のいない方はご自身の欄のみに記入)

本人の職業については、「会社員、会社役員、公務員」の割合が最も高く 37.1%となっており、次いで「パート・アルバイトまたは内職」の割合が 13.7%、「専業主婦（夫）」の割合が 12.9%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「無職（専業主婦（夫）・学生以外）」の割合が低くなっています。

配偶者の職業については、「会社員、会社役員、公務員」の割合が最も高く 25.0%となっており、次いで「パート・アルバイトまたは内職」の割合が 9.2%、「無職（専業主婦（夫）・学生以外）」の割合が 7.7%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「専業主婦（夫）」の割合が低くなっています。

図 本人の職業

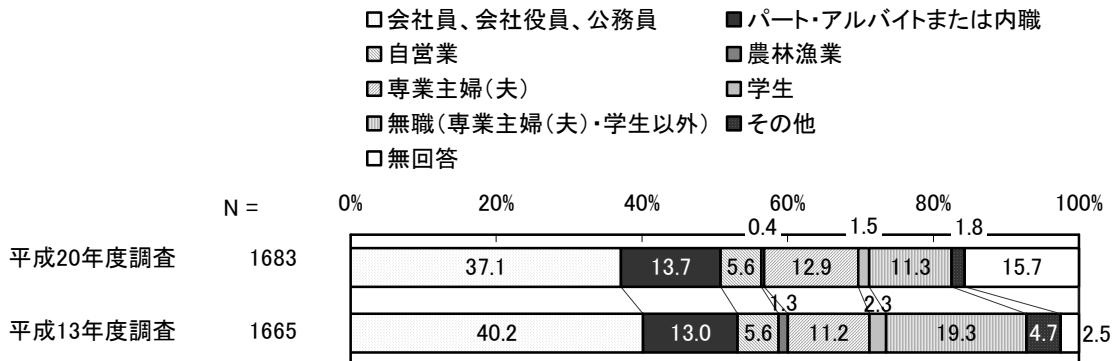
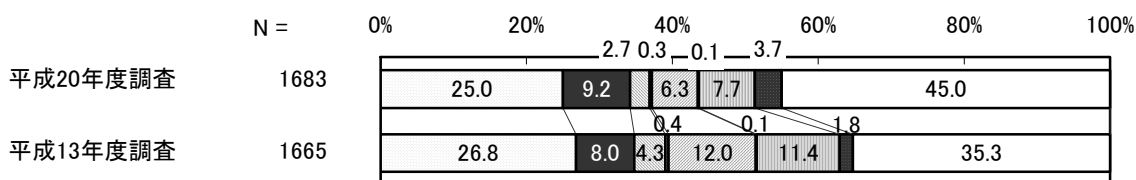


図 配偶者の職業





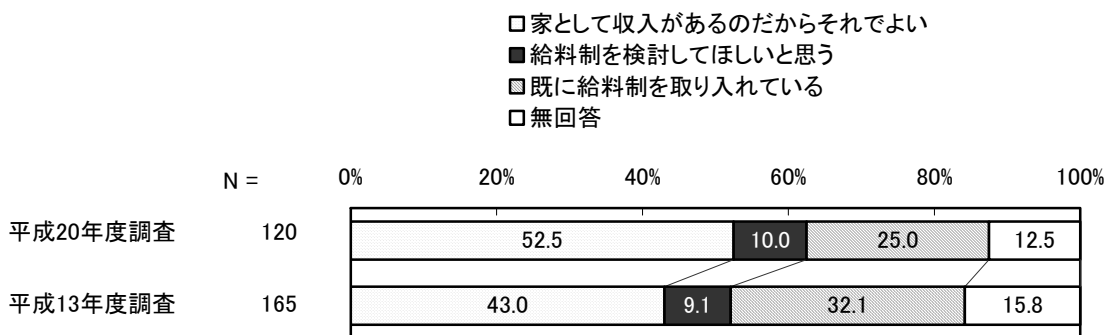
問 24 問 23 で「3. 自営業」または「4. 農林漁業」と答えた方におうかがいします。農業や商業などの自営業の場合、収入は家全体のものとして扱われ、働きに相当する分の報酬が明確となっていない場合も多くありますが、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

働きに対する報酬の明確性については、「家として収入があるのだからそれでよい」の割合が最も高く 52.5%となっており、次いで「既に給料制を取り入れている」の割合が 25.0%、「給料制を検討してほしいと思う」の割合が 10.0%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「家として収入があるのだからそれでよい」の割合が高くなっています。

有効回答数が少数であり、統計上の信頼度が確保できないためクロス集計、コメントは差し控えます。

図 働きに対する報酬の明確性



**問 25 あなたは、現在収入を得て働いていますか。**

収入を得て働いているかについては、「働いている」の割合が 65.0%、「働いていない」の割合が 33.5%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性に比べ女性で「働いていない」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、主な労働力人口である 50 歳代以下のうち、女性の 30 歳代で「働いていない」の割合が高くなっています。

図 収入を得て働いているか

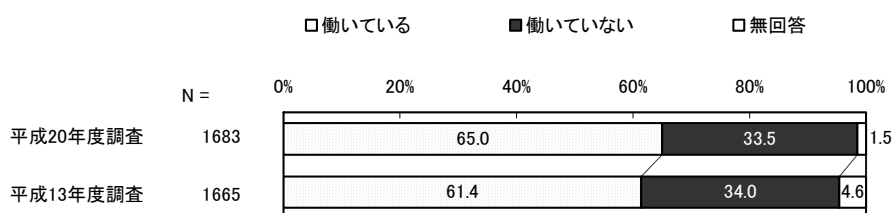


図 性別でみる収入を得て働いているか

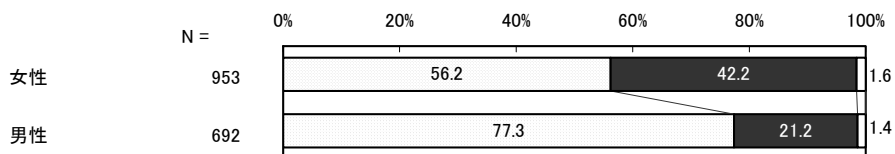


図 性・年代別でみる収入を得て働いているか

